



ニセコリゾートにおける 医療の現状と問題 ～逼迫する地域救急医療～

倶知安観光協会 夏の事業説明会

医療法人NIC 理事長
師井邦竹
2024/7/5



自己紹介

- 1998年 熊本県立人吉高校卒業、ボストンの大学へ留学
- 2003年 Tufts University/School of Museum of Fine Arts 卒業
- 2006年 東海大学医学部入学
- 2012年 手稻溪仁会病院で初期研修スタート
- 2014年 羊蹄山麓家庭医養成プログラム
- 2017年 家庭医療専門医取得、NIC開院



背景

- コロナ禍が収束→観光客増加→町には活気が戻った^^
- オーバーツーリズムによる地域救急医療の逼迫
- 倶知安町の基幹産業は観光→国際リゾート都市づくり
- 世界標準的な医療体制を整備する必要性あり
- 観光によって地域住民の医療サービスに弊害が生じてはならない
- 外国人旅行者の約4%が、怪我や風邪などになる！
(観光庁202/6/28 <https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001751351.pdf>)
- 怪我のリスクが高いスノーリゾートでの割合はもっと高い！
- 逼迫する医療現場の現状を知って欲しい
- 今後の戦略に対して、共に考えたい

ニセコリゾートの医療

2017-18シーズンまでは医療機関はゼロ！

- ニセコフィジオ（オーストラリア人の経営する整体院）
- 倶知安厚生病院（倶知安町内、リゾート地区から車で15分）
- 他、倶知安町内にはクリニックが6件あるが、外国人患者の診療を積極的には行っていない

2014 & 2015年の冬季

倶知安厚生病院整形外科での研修を行い、
外国人患者が困っていることを痛感！

2017年12月11日、NIC開業

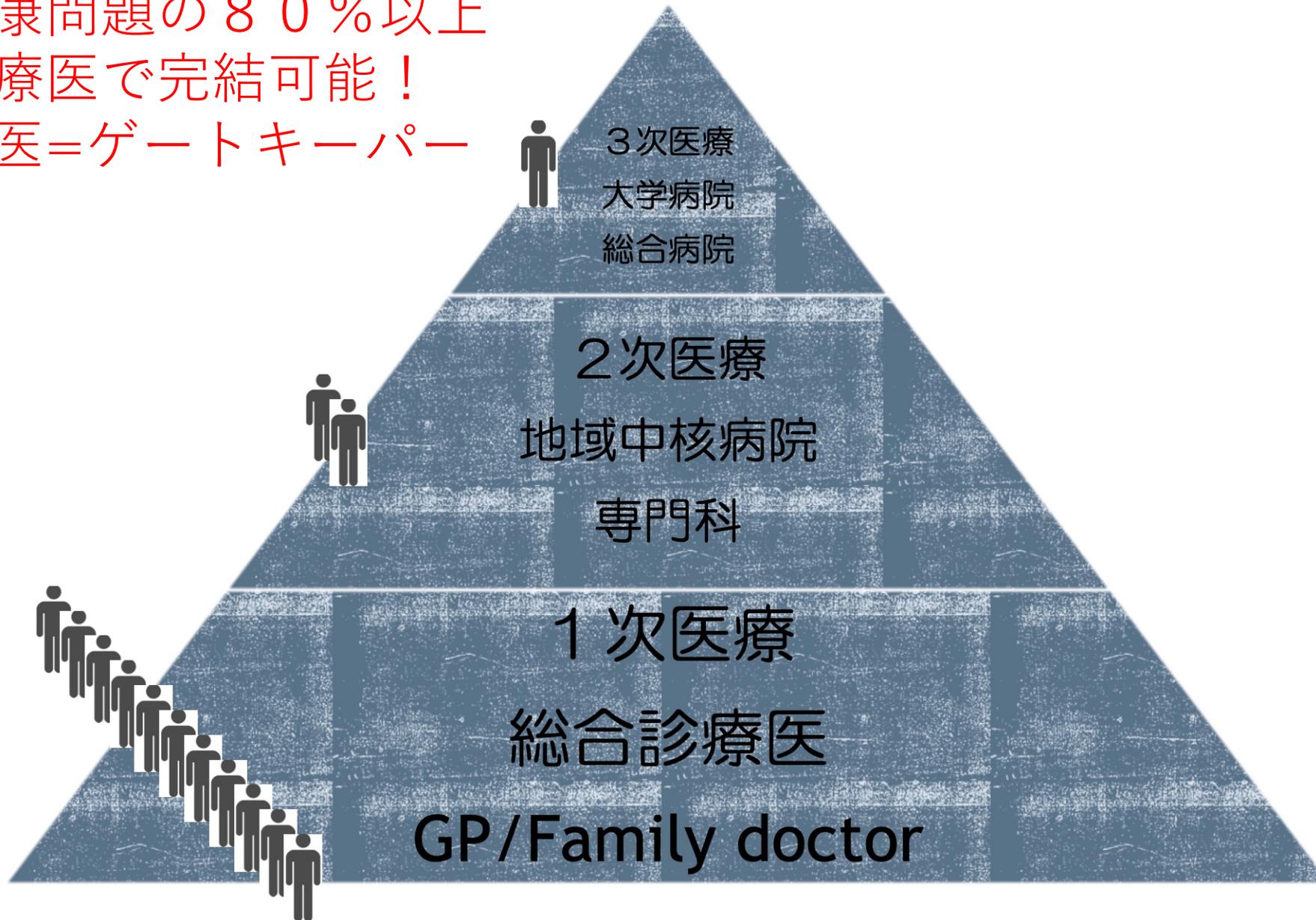


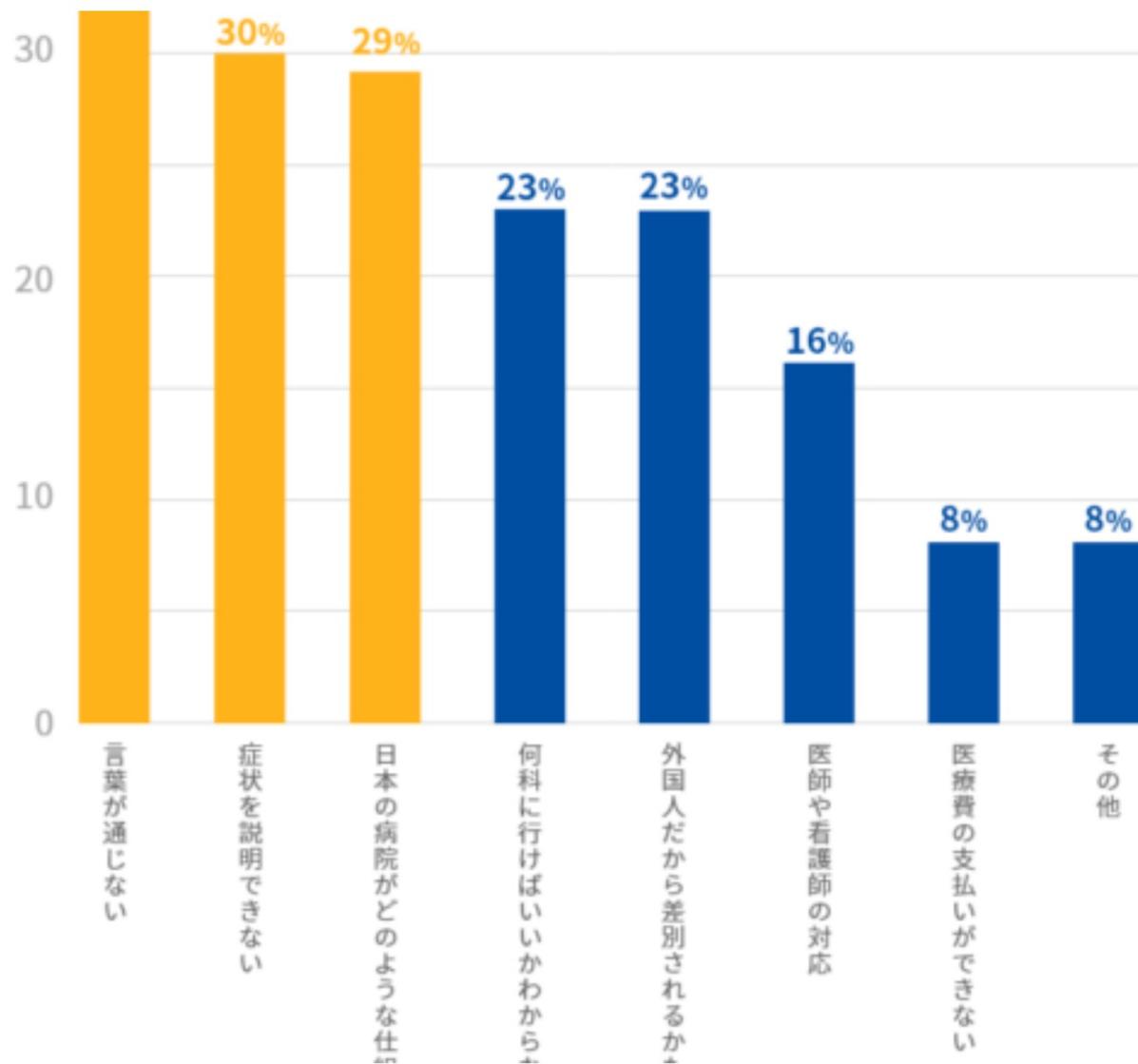


ニセコリゾートの医療圏



日常の健康問題の80%以上
が総合診療医で完結可能！
総合診療医=ゲートキーパー





「病院の使い方が分からない」

在留外国人の**60%**が日本の医療機関を利用する際に不安！

NICの総合診療医が一次医療を担い外国人患者の不安を軽減させる！
高次医療機関の負担を軽減！





- ・ 羊蹄山麓の基幹病院
- ・ 二次医療機関
- ・ 標榜15科、234床
- ・ 超多忙、待ち時間も長い
- ・ 冬季は医療通訳を配置
- ・ 外国人患者が多い、慣れている
- ・ 循環器疾患、脳神経疾患、重症外傷などには対応不可
- ・ 夜間、土日祝日は、医師1名で救急外来を担当
- ・ 救外の医師は”救急医”ではない。各診療科医（耳鼻科、精神科、泌尿器科など）や、羊蹄医師会の開業医などで回している



外国人患者受入れ医療機関認証制度

JCI (Joint Commission International)

- 亀田メディカルセンター
 - NTT東日本関東病院
 - 札幌東徳洲会病院
- など、合計29医療機関

JMIP (Japan Medical Service Accreditation for International Patients)

- 函館新都市病院
- 北海道大学病院
- 札幌東徳洲会病院

札幌にはたったの2つだけ
医療の国際化が遅れている…

面倒臭い、訴訟リスク高い、未払い問題、診たくない…
外国人患者の受け入れ先を探すのが時に困難…



Our Team

医師	2~3名
看護師	5~7名
理学療法士	1~3名
事務	2~4名
運転手	1~3名



Medical Services

- ✓ 血液・尿検査
- ✓ 迅速感染症検査
- ✓ 超音波検査
- ✓ レントゲン検査
- ✓ 心電図検査
- ✓ 肺機能検査
- ✓ 院内処方



CT/MRIがない以外は、救急外来レベル！



NICの診療日

冬季間： **毎日診療**

(土日祝日 年末年始 休みなし!)

夏期間： 月、火、水、金、土

ニセコインターナショナルクリニック

地元要望に応え通年診療

【倶知安】リゾートの町内ひらふ地区で昨年開業した診療所「ニセコインターナショナルクリニック」(師井邦竹院長)が今年、通年診療することを決めた。

同クリニックは英語対応が可能なリゾート地区唯一の診療所として昨年12月に開業。総合診療科の無床診療所で、当初は観光客が減る夏季の診療は未定としていたが、地元ペンションの経営者らの要望に応じて夏季も診療を続ける。

11月末までは師井院長1人で月、水、金、土の週4日診療する。12月～来年3月は医師2人体勢で無休とする予定。

師井院長は「地元に寄り添った診療所でありたい。複数の専門科にかかっていて一つにまとめた人など気軽に相談してほしい」と話している。

同クリニックによると、昨年12月～3月末の受診者は約2千人で、8割が外国人だった。(堀田昭一)



受診理由は様々 “僻地の駆け込み寺” 総合診療医が輝ける最高の舞台

Inbound症状別件数合計（2023年12月－2024年3月）

